

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	りんくる		
○保護者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年 4月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2 月21 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の児童の発達や個性を大事にしながら 保護者と向き合い 支援の方向性を考え実践している。保護者とは 児童の家庭での様子をいつでも聞けるような体制を整えている。	多様な専門職による支援を行う事で 多角的な視点での支援を提供することが出来る。	個々の成長に合わせて それぞれの特性にあった療育を進めている。子供たちがこれからの人生を自分らしく生きることが出来る力を養うことができるように ひとり一人のつまづきに合わせて療育する個別の支援をしている。また 保護者とのライン交換をし 情報の共有をしている。今後もより深い情報を元に 支援に活かしていく。
2	グループ施設の児童発達支援事業所との連携が可能で保護者の多様なニーズに十分に対応できる体制が整っている。	それぞれの専門性のある職員の配置もあり 児発管や保育士を含む支援員との連携時間を確保しており 様々な課題や問題点を 積極的に意見を出し合う体制を整えている。	就学に向けて小学生低学年向けの放課後デイサービス事業所にも力を注ぎ 児発から次の段階 放課後デイまでの児童を見守り続けていくことが出来る。
3	毎月の通信をカラフルに見やすくし りんくるでの児童の様子を紹介しながら ピンポイントで 今 私たちスタッフが取り組んでいることをお知らせしている。	誤字脱字チェック 文章を何回も読み スタッフ全員で目を通している。	毎日の児童の成長ぶりを メモを取り 次の 通信の課題に役立っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用希望者が増えた場合の体制構築が困難である。	配置人数が限られているため利用希望者が増大した際に迅速に体制を整えるのが困難になる。	グループ内の既存利用者様や地域の関係機関と情報共有を密に取り 他のニーズを細やかに把握し 体制の強化を行っていく。
2	支援人数が限られているため モニタリングや個別支援計画等書類作成業務に時間がかかり 支援時間の確保との両立に苦慮している。	きめ細やかな支援を大前提としているため配置可能な人員数に対して業務量が通常よりも膨らむ傾向にある。	支援の時間 質を低下させることはできないため 書類業務をシステム化し 効率化を図る事で書き物などの時間を削減できるのではと 考える。
3			